

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270600158		
法人名	社会福祉法人 福祉の里		
事業所名	ふるさと十和田		
所在地	〒034-0061 青森県十和田市切田字横道100-22		
自己評価作成日	平成24年9月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成24年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設施設の敷地内にあり周囲は民家が少ない農村地帯であるが、季節の移り変わりを目や肌で直接感じられるような環境である。利用者が楽しめる行事を毎月計画し実行している。また、家族交流会を2ヶ月に1回設け、家族同士の交流を深めている。風呂の改築をし、個浴でゆったり入れる楽しみのあるものになっている。敷地内の散歩で歩行能力の維持を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所の空間が広く、利用者はゆったりとしたスペースで生活されている。天井には天窓があり採光も十分で、自然を眺めながら楽しく生活できている。近隣に民家が少ないものの、地域の小学校の行事に招待されたり地域の行事に出向くなどして地域との交流を図っている。また、2ヶ月に1回家族交流会を開催し事業所と家族との交流も図られている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をホールに掲示している。その理念を共有し実践につなげている。	法人の理念に基づき職員間で話し合い、事業所で理念を定め、名札に入れるなどして実践できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流までは至っていないが、学校行事への参加、中高生の実習、ボランティアの受け入れで交流している。	小学校の行事に招待されたり、地域の神社のお祭りに招待される等地域との交流が図られている。また、中・高生のボランティアや実習の受入れ先となり、交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小、中学校の生徒さんとの交流を通し、認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、メンバーである地域の方々や有識者、利用者家族等へ状況を報告し、話し合いを行っている。意見のあった事等をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議で出された意見については出来ることから一つずつ取り組むこととしており、利用者へのサービス向上につなげている。また、家族の面会の際に会議の内容を伝え、事業の内容を理解して頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催で事業所の取り組みを伝え協力関係を築くよう協力している。	担当者の運営推進会議出席率も高く、運営状況を理解して頂いている。また、時々市職員が来訪する等、事業所とのコミュニケーションも図られており協力体制が整っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修の参加、各自の勉強で理解している。また、関係資料も用意している。玄関の施錠は安全確保の為にしている。今後の検討課題である。	研修による理解のほか、身体拘束をしないためマニュアルを事務室に保管しており、いつでも内容を確認できるようにしている。玄関は安全対策のため鍵を施錠しているが、施錠しないための取り組みを検討している。	利用者の安全を確保する目的として24時間施錠しているが、本人の思いや閉鎖的な印象を受けることなどを考慮し、施錠しない取り組みの実践に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設研修参加、内部研修を行い周知を図る事で、職員は理解している。日々の業務の中でも注意し合える体制を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で権利擁護について学ぶ機会を設け、職員の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設研修で、重要事項説明書、契約書の内容を勉強し、契約時は説明は丁寧に行い、理解を得られるように努めている。管理者だけでなく全職員が対応できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族参加の行事等で気軽に話せるような雰囲気作りに心掛け、意見や要望等を聞くようにしている。電話連絡でも近況を説明している。意見が寄せられた時は職員間で話し合い運営に反映している。満足度調査を家族に向け行っている。	利用者からの意見が少なく、家族からの意見は面会や電話連絡の際に伺ったり、定期的に満足度調査を実施することで運営に反映できるように取り組んでいる。また、外部の相談窓口については事前に説明されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開き、職員に意見、提案を聞き業務反映させている。	毎月の職員会議で意見が出たものは工夫し、業務に反映できるよう取り組んでいる。また、代表者と管理者が月に1回運営会議を開催しており、職員から意見を提案できる機会が設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は年2回人事考課を行い、職員の勤務を評価している。社内研修を積極的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は職員の段階に応じた研修に計画的に参加させている。又、事業所独自でも研修を計画し、勉強会をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の参加で同業者と交流する場を設けている。他事業所との交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談をもち、本人の思いを聞き取っている。また、安心してもらえるよう丁寧に話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面談をもち、家族の思いを聞き取っている。また、安心してもらえるよう丁寧に話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主にグループホーム入所の話がメインになっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを尊重し、ゆったりした時間を作り、本人に寄り添い、言葉に耳を傾けるようにしている。食事作りや後片付け、畑作業や作品作りなどを一緒に行なう事で、相互の関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時に本人の様子を説明している。本人、家族が話しやすい雰囲気を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所へのドライブや、祭り見学を行っている。が、まだまだ不十分である。	外出した際、ドライブを兼ねて馴染みの場所に立ち寄ったり、隣接の事業所に訪問し馴染みの人と交流できる機会が設けられている。また、2ヶ月に一度家族会を開催し、家族と共に楽しむ機会を設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性をみながら自然に話ができる状況を作るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	みのり苑の相談室が窓口となり、サービス利用のための情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から本人の意向の把握に努めている。困難な場合は家族から情報を得ている。	個々に会話できるように工夫し、会話の中から本人の意向を汲み取り、聞き逃すことの無いよう記録にとめて本人の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りを随時行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から入居時に聞き取りをしたり、面会の時などに意向を伺い、介護計画に反映させている。	利用者毎に担当を設け、利用者や家族に意向を確認し、毎月ケアプランを評価することで現状に即した介護内容であるか検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一月に一度、担当者がケアの評価を行っている。又、カンファレンス時に情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけニーズに対応するよう努力しているが多様化までは出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者を支える地域資源としての自分たちの役割を意識して支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により協力病院や入居前からのかかりつけ医がある場合は継続して支援している。	病院受診は事業所側で対応しており、本人及び家族からの希望により、入居前のかかりつけ医を受診できるように配慮している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護時は入居個々の近況報告や、相談をしている。訪問以外でも異常時は電話連絡し相談し、指示してもらう事で、入居に適切な支援を行うように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の面会等で病院スタッフと情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向は最後までGHが多い。事業所でできる説明をする機会が取れていないのが現状。今後、支援の方向性を皆で話し合い取り組んでいきたい。	看取りの事例は無いが、看取りに関する方針や具体的な支援内容は重要事項説明書に明記されている。事業所として重度化した場合や看取りを含めた取り組みができるよう検討されている。	看取りについての取り組みを検討しているとの事ですので、今後の取り組みに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で勉強会をしたり、マニュアルを作成し、職員の周知を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。地域の方の協力をどう得ていくかを検討している段階。推進会議の場を利用し話し合っている。	年2回、消防署員立ちあいの避難訓練が実施されており、夜間災害が発生した場合は隣接施設から協力が得られる体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した名前の呼び方をし、声かけ時は十分気をつけて行っている。	トイレ誘導時のさりげない声掛けや、居室に入る際はノックをする等プライバシーに配慮するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、入浴に対する決定や行事参加など選びやすいよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ、一人一人の意見を尊重した支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や更衣の支援を行い、散髪は入居者からの要望を優先し、定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立表は併設事業所の栄養士が作成している。入居者の希望にてメニューを変更したり、ホームで収穫された食材を取り入れている。入居者の状態により食事の準備や野菜の皮むき、後片付けを行って頂いている。	皮むきや後片付け、おやつ作りなど利用者ができることは一緒に行い、食事と一緒に楽しんでいる。また、週に1回利用者の要望や嗜好を取り入れた献立を作成している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は記録し、不足な時は状態に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援を行っている。自力で出来る方は準備や声掛けをし、自力では困難な方は支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者個々の状態を把握し、トイレ誘導、声掛けを行っている。日中も夜間もリハパンやパットは使用するが、トイレ誘導にて支援している。排泄の失敗の多い方はトイレの回数を多くしたり、まめに声掛けを行っている。	排泄パターンを取ったり、表情やしぐさを確認しトイレ誘導している。また、定時誘導もを行い、失敗無くトイレで排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を取り入れたり、バナナやヨーグルトを定期的におやつや食事時に提供し、便秘の予防を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴チェック表を参考にし、本人の希望や状態を考慮し入浴している。個々の曜日を決めたり、無理に入浴しないよう努めている。	入浴日を定めず利用者の意向を確認し入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は少しで休息して頂いている。夜間はパジャマに着替えたり、楽な格好で眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の薬の用法、用量表をカルテや薬管理ファイルに綴り、常に見れるよう職員の周知、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業や裁縫、掃除や洗濯物をたたむ等、入居者ができる事、やりたい事、今までやってきた事の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩等、本人の意向に合わせて外出支援をしている。	家族と出かけたり、事業所では時期になると花見に出かけたり、食材の買い物を職員と一緒にする等、外出する機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のお金は金庫にて管理し、毎日チェックしている。本人が欲しい物や必要な物はその都度聞いたり、確認し購入しており、間違いがなよう出納帳に記入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くにいる家族からプレゼントや手紙が届いた時は、手紙やはがきを出し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や観葉植物、作品を飾っている。季節感が感じられ、居心地よく過ごせる空間作りに努めている。	天井には天窓があり、自然の光が差し込んでいて居心地の良い空間が作られている。また、床暖房やエアコンが取り付けられており、温度管理が適切に行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの場にソファを置き、気の合う同志で座り会話されたり、テレビ鑑賞されたりとゆっくり過ごされるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していた電気カミソリ、湯呑み、歯磨きコップ等を持ってきて頂いている。人形を常に抱えている方や写真を飾っている方もおり、自宅では布団で休まれていた方には床に布団を敷き休んで頂き、本人が過ごしやすい居室となるよう工夫している。	自宅で使用していたものを持ち込んでもらい、安心した生活が送れるよう努めている。また、入居前の環境に合わせた居室になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入口に名前、目印をつけ本人が分かりやすいように工夫している。玄関に椅子を配置し、出来る動作を行ってもらっている。		